授業科目		情報科学〕	П	担当教員						笹谷 純代			
(科目ID)		23p201		(実務経験)	1		無			講習、雇用促進等 たり従事	のインストラクターとして20年以上に		
対象年次・学期	2年•前	 前期		必修·選択区分	必修	Ş				単位数	1単位		
授業形態	演習			授業回数(1回90分)				1	5	時間数	30時間		
授業目的	この授いて必	業は、本校における学 要となる、情報やデー	学習に必要な、情報! -タの処理方法と操作	Jテラシーと Microsft Word、I 作方法、それらを有効活用す	、Excel、PowerPointの操作方法を身につけることを目的とする。また、社会生活するための知識を習得して、現代社会に適応していく能力を身につける。								
到達目標	①Wor ④情報	dを使ってレポートやポ B化社会でのモラルや	ポスターが作成できる 責任について、自己	。 ②Excelを使って集計表 の考え方を説明できる。	きが作	成でき	5. (3PowerF	Point	を使ってスライド	が作成できる。		
テキスト・ 参考図書等		引アカデミック 情報リラ ws 10対応	テラシー Office2016										
		評価方法	評価割合(%)	評価基準									
	試験		50%										
評価方法・	レポー	-	%										
評価基準	小テス	<u></u>	%	・各試験の平均点50% ・提出物50%									
	提出物	D	50%										
	その他	<u>1</u>	%										
履修上の 留意事項	①授業	になPC室で行うので時	ること。②説明と実習(実習)	がメイ	′ン)③テ	キスト	は1年時	のもの	のを使用する。				
	回数		履修主題		履修内容								
	1	コンピューターとイング	ターネット(序章)		ネット社会でのトラブル、回避するために								
	2	文書化の応用(第2章	重付録)		ビジネス文書の基礎知識								
	3	文書化の応用(第2章	至7)		長文	作成を	サポー	トする					
	4	文書化の応用(プリン	/ F)		住所録作成、差し込み印刷、はがき印刷								
	5	文書化の応用(プリン	/ F)		名朿	作成、	宛名ライ	ベル作成					
	6	文書化の応用(プリン	/ F)		ポス	ター作	製、						
履修主題•	7	表計算ソフトの活用(第3章5)		いろ	いろな	改式(絶	対参照、	いろ	いろな関数)			
履修内容	8	表計算ソフトの活用(第3章7)		デー	-タベー:	スの利用	用(並べ春	替え、	データの抽出)			
	9	表計算ソフトの活用(第3章8)		Exc	elのデー	-タをWo	ord文書に	に貼り	り付ける			
	10	表計算ソフトの活用(プリント)		ピポ	シトテー	ブル						
	11	表計算ソフトの活用(さま	ざまな負	計表							
	12	表計算ソフトの活用(さまざまな集計表									
	13	プレゼンテーションソ)	スライドショーをサポートする機能									
	14	プレゼンテーションソ	寸録)	プレゼンテーションの基礎技能									
	15	まとめ			総合演習、情報モラル								

2023年度

専門学校北海道リハビリテーション大学校

授業科目		解剖学実習	9 3	担当教員					飯島 治之	島 治之			
(科目ID)		23p202		(実務経験)	有		無		医学博士を有し解剖	学講師として10年以上従事			
対象年次•学期	2年・道	五年		必修·選択区分	必修	5			単位数	1単位			
授業形態	実習			授業回数(1回90分)				23	時間数	45時間			
授業目的	・理学	療法の基礎になる骨・	筋を主に各種臓器を	·模型等を観察し実習を行う。	う。さらに解剖された人体観察を通して、その構造と各器官の連関を理解する								
到達目標	·骨やi	筋をはじめとする人体	臓器の構造、名称や	ゥ位置および構造について説	説明することができる。								
テキスト・参考図書等	カラー	人体解剖学 構造と機	能:ミクロからマクロ	まで									
	評価方法 評価割合(%)							評価基	準				
	試験	試験											
評価方法・	レポート		%										
評価基準	準 小テスト 50% 小テスト、後期試験により評価する。												
	提出物	0	0%										
	その他 %												
履修上の 留意事項	い理解	なこと。		基礎となるため自ら能動的に として積極的に学習に取り			通して	主体的に	学習すること。講義	後の確認テストは必ず見直しを行			
	回数	(自光子では、収念と)	履修主題	.CU く行行をはいて子 日1こ以り心	100	·C°			履修内容				
	1	骨学実習			オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習								
	2	骨学実習			オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習								
	3	骨学実習			オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習								
	4	骨学実習			オリ	エンテー	-ション	・骨の名称	「や位置・構造につい	て学習			
	5	筋学実習(上肢・下肢	:•体幹)		筋の	名称や	位置・	構造につい	ハて学習				
	6	筋学実習(上肢・下肢	:•体幹)		筋の	名称や	位置∙	構造につい	ハて学習				
履修主題•	7	筋学実習(上肢·下肢	· · 体幹)		筋の	名称や	位置∙	構造につい	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
履修内容	8	筋学実習(上肢・下肢	•体幹)		筋の	名称や	位置∙杮	構造につい	・て学習				
	9	靭帯学実習			靭帯	の名称	や位置	・構造につ	ついて学習				
	10	脳∙脊髄			脳・脊髄の名称や位置・構造について学習								
	11	脳∙脊髄		脳・1	脊髄の名	名称や何	立置・構造	について学習					
	12	神経系		神経	その名称	や位置	・構造につ	ついて学習					
	13	心臓・肺・その他臓器		心臓・肺・肝臓・腎臓・胃・腸など主な臓器の名称や位置・構造について学習									
	14	各臓器、器官のつなが		1~13回で学んだ位置や構造の関係性について学習									
	15	各臓器、器官のつなが		1~13回で学んだ位置や構造の関係性について学習									

	回数	履修主題	履修内容
	16	各臓器、器官のつながり	1~13回で学んだ位置や構造の関係性について学習
	17	解剖学実習見学のオリエンテーション	人体解剖学実習見学にあたってのオリエンテーション
	18	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
履修主題• 履修内容	19	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	20	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	21	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	22	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	23	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)

授業科目	解剖学実習	担当教員	二宮	7 孝文	
(科目ID)	23p202	(実務経験)	有 🗹	#	道内・道外医科大学にて解剖学講座に所属し40年以上 の経験を有する
対象年次·学期	2年・通年	担当教員	山内	真帆	
授業形態	実習	(実務経験)	有 🗹	無□	道内の病院に理学療法士として8年勤務
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有 🏻	無□	

授業科目	運動学実習 担当教員 横野 裕行											
(科目ID)		23p203		(実務経験)	有 🗹	無		道内・外の病院で理	学療法士として8年勤務			
対象年次・学期	2年•道	五 年		必修·選択区分	必修			単位数	1単位			
授業形態	実習			授業回数(1回90分)			23	時間数	45時間			
授業目的		景法士、作業療法士に。 解を深めることが目的		の現象を捉え理解することは	D現象を捉え理解することは非常に重要である。本科目では、実習を通して観察・測定・分析の各段®							
到達目標	·身体 ·実習	運動によって生じる諸: 結果をまとめ、結果が:	現象の基本的事項(生じた理由・原因に	こついて説明できる。 ついて考察することができる。								
テキスト・参考図書等		重動学(第6版 補訂) 学実習 第3版										
	評価方法 評価割合(%)											
	試験		%									
評価方法・	レポー	-	100%									
評価基準	小テス	!	%	レポート点100% 詳細については、初回のオ!	リエンテーショ:	ンで説り	明する					
	提出物	b	%									
	その他	<u> </u>	%									
履修上の 留意事項	レポーと。	-トはオリエンテーション	√を参考にして、充実	とした内容のものを作成するこ	5こと。探究心を持って取り組むことを勧める。また、レポート提出は期限を厳守するこ							
								内容				
	回数		履修主題					履修内容				
	回数	オリエンテーション・体			授業オリエン	テーシ	ョン、レポ		体表解剖(ランドマーク触診)			
	1	オリエンテーション・体 オリエンテーション・体	本表解剖					ート課題の書き方、	体表解剖(ランドマーク触診) 体表解剖(ランドマーク触診)			
	1		本表解剖			テーシ	ョン、レポ	一ト課題の書き方、				
	1 2 3	オリエンテーション・体	本表解剖		授業オリエン	ケーシ 摂取量(ョン、レポ	ート課題の書き方、 ート課題の書き方、 か拍数)				
	1 2 3	オリエンテーション・体実習1	本表解剖		授業オリエン最大下酸素材	摂取量の	ョン、レポ の推定(心 の推定(心	ート課題の書き方、 ート課題の書き方、 か拍数) か拍数)				
	1 2 3	オリエンテーション・体実習1	本表解剖		授業オリエン最大下酸素を表表して、最大で酸素を表表して、	摂取量・摂取量・摂取量・	ョン、レポの推定(心の推定(心の推定(心の推定))	ート課題の書き方、 ート課題の書き方、 か拍数) か拍数)				
	1 2 3 4 5	オリエンテーション・体 実習1 実習1	本表解剖		授業オリエン最大下酸素技量大下酸素技	摂取量	ョン、レポの推定(心の推定(心の推定(心の推定))	ート課題の書き方、 ート課題の書き方、 か拍数) か拍数)				
履修主題・ 履修内容	1 2 3 4 5 6	オリエンテーション・体 実習1 実習1 実習1	本表解剖		授業オリエン 最大下酸素 最大下酸素 最大下酸素 最大下酸素	摂取量の摂取量の摂取量の	ョン、レポの推定(心の推定(心の推定(心の推定))	ート課題の書き方、 ート課題の書き方、 か拍数) か拍数)				
	1 2 3 4 5 6 7	オリエンテーション・体 実習1 実習1 実習1 実習1	本表解剖		授業オリエン 最大下酸素 最大下酸素 最大下酸素 最大下酸素 重心位置推定	摂取量・摂取量・摂取量・	ョン、レポの推定(心の推定(心の推定(心の推定))	ート課題の書き方、 ート課題の書き方、 か拍数) か拍数)				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	オリエンテーション・体 実習1 実習1 実習1 実習1 実習2	本表解剖		授業オリエン 最大下酸素 最大下酸素 最大下酸素 最大下酸素 重心位置推定	テーシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ョン、レポの推定(心の推定(心の推定(心の推定))	ート課題の書き方、 ート課題の書き方、 か拍数) か拍数)				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	オリエンテーション・体 実習1 実習1 実習1 実習2 実習2	本表解剖		授業オリエン 最大下酸素素 最大下酸素素 最大下酸素素 重心位置推加 重心位置推加 重心位置推加	テーシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ョン、レポの推定(心の推定(心の推定(心の推定))	ート課題の書き方、 ート課題の書き方、 か拍数) か拍数)				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	オリエンテーション・体 実習1 実習1 実習1 実習2 実習2 実習2	本表解剖		授業オリエン 最大下酸素素 最大下酸素素 最大下酸素素 重心位置推加 重心位置推加 重心位置推加	テーシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ョン、レポの推定(心の推定(心の推定(心の推定))	ート課題の書き方、 ート課題の書き方、 か拍数) か拍数)				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	オリエンテーション・体 実習1 実習1 実習1 実習2 実習2 実習2 実習2	本表解剖		授業オリエン 最大下酸素 最大下酸素 最大下酸素 重心位置推 重心位置推 重心位置推 筋力測定	テーシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ョン、レポの推定(心の推定(心の推定(心の推定))	ート課題の書き方、 ート課題の書き方、 か拍数) か拍数)				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	オリエンテーション・体 実習1 実習1 実習1 実習2 実習2 実習2 実習2 実習2	本表解剖		授業オリエン 最大下酸素 最大下酸素素 最大下酸素素 重心位置推定 重心位置推定 重心位置推定 筋力測定	テーシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ョン、レポの推定(心の推定(心の推定(心の推定))	ート課題の書き方、 ート課題の書き方、 か拍数) か拍数)				

	16	実習4	歩行分析					
	17	実習4	步行分析					
	18	実習4	歩行分析					
履修主題•	19	実習5	嫌気性代謝閾値の推定(呼気ガス)					
履修内容	20	実習5	嫌気性代謝閾値の推定(呼気ガス)					
	21	実習5	嫌気性代謝閾値の推定(呼気ガス)					
	22	実習5	嫌気性代謝閾値の推定(呼気ガス)					
	23	まとめ、フィードバック	まとめと復習					

授業科目	運動学実習	担当教員	竹中 謙将	
(科目ID)	23p203	(実務経験)	有 ☑ 無 □ 道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法して勤務	ŧ±٤
対象年次·学期	2年·通年	担当教員	武田 祐貴	
授業形態	実習	(実務経験)	有 🗹 無 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間	勤務
		担当教員	元木 純	
		(実務経験)	有 🗹 無 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤	務
		担当教員	吉田 智子	
		(実務経験)	有 🗹 無 🔲 市内整形外科病院にて理学療法士として10年以上	勤務
		担当教員	小野 直也	
		(実務経験)	有	
		担当教員	和田 英峰	
		(実務経験)	有 無	
		担当教員	池田 保	
		(実務経験)	有 無 道内病院にて作業療法士として10年勤務	
		担当教員	水尻 恵利伽	
		(実務経験)	有 無	勤務
		担当教員	山田 里見	
		(実務経験)	有 無 道内病院にて作業療法士として6年勤務	
		担当教員	山内 真帆	
		(実務経験)	有	

授業科目 (科目ID)		臨床心理学	Ź	担当教員						久原 奈緒子		
(科目ID)		23p204		(実務経験)	 		無		ĭ	首内スクールカウン・	セラーとして10年の実務経験あり	
対象年次·学期	2年・前	前期		必修·選択区分	必須	į				単位数	2単位	
授業形態	講義			授業回数(1回90分)				1	15	時間数	30時間	
授業目的					(く学んでいきます。心理療法や心理査定の基本的な知識を修得すること、 けられるようにすることを目的とします。							
到達目標				■ では ■ ででは ででも 単位 できる できる できる できる できる できる できる できる	方法の理解、心理療法の概要を知り、対象者からの情報収集の方法、また体 きることを目標とします。							
テキスト・参考図書等	教科書	まくわかる臨床心理	学									
		評価方法	評価割合(%)					評価	基準	Ē		
	試験		80%									
評価方法・	レポート %											
評価基準	小テス		%	定期試験80%、提出物20%	にて	評価しま	きす。					
	提出物	7	20%									
	その他	1	%									
履修上の 留意事項	必ずし	も教科書に従って講義	を進めるとは限りま	せんが、事前に一読下さい。	,							
	回数		履修主題							履修内容		
	1	臨床心理学の基礎理	論、アサーション		各理論の概要、アサーション体験							
	2	発達障害①			注意欠陥·多動性障害、行為障害、学習障害							
	3	発達障害②			自閉性障害、チック症、精神遅滞、知的障害							
	4	不安と身体関連障害(Û		気分障害(うつ病・双極性感情障害)、睡眠障害							
	5	不安と身体関連障害の	2		薬物	・アルコ	コール依	存症、提	長食	障害		
	6	不安と身体関連障害の	3		スト	ノス関連	陣害(恐怖症、	パニ	ニック障害、PTSD	、強迫性障害)	
履修主題・	7	不安と身体関連障害の	4		人格	障害、	統合失	調症				
履修内容	8	アセスメント①			心理	検査法	(質問約	氏法、投資	影法	t、作業検査法)の	機要他	
	9	アセスメント②			初回	面接(-	インテー	ク面接)	の相	既要他		
	10	心理療法①			支持	的精神	療法、	表現療法	ţ			
	11	心理療法②			訓練	!療法(自律訓絲	東法)、行	動:	療法(系統的脱感	作法)	
	12	心理療法③			洞察	療法(来談者「	中心療法	;),	認知療法		
	13	心理療法④			その	他の療	法(内征	見療法)				
	14	心理療法⑤		芸術療法(描画療法、サイコドラマ、音楽療法、コラージュ療法)								
	15	心理療法⑥		ソーシャルスキルトレーニング								

授業科目		一般臨床医	学	担当教員	鬼原彰								
(科目ID)		23p205		(実務経験)	有	V	無		市内の医科大学にて 後、市内病院で内科	「内科学教授として教育に従事、その 医として勤務。			
対象年次・学期	2年・後			必修·選択区分	必修				単位数	2単位			
授業形態	講義			授業回数(1回90分)				15	時間数	30時間			
授業目的					いる科目以外の領域を学習するものである。 の成書を用いて学習を深めることが必要である。								
到達目標	・下記	の診療科目に関して、	主要な疾患概要の	理解を深める									
テキスト・ 参考図書等	PT•0 ⁻	T・STのための一般臨	床医学 第3版										
		評価方法	評価割合(%)					評価基	準				
	試験		100%										
評価方法・	レポー	-1-	%										
評価基準	小テス	<i>.</i> -	%	定期試験により評価									
	提出物	D	%										
	その他	<u> </u>	%										
履修上の 留意事項	欠席も	せず、予習復習をするこ	٤٤.										
	回数		履修主題						履修内容				
	1	外科総論			機械	滅的・非機械的損傷、感染性疾患、抹消血行障害、腫瘍、臓器移植							
	2	脳神経系外科			主な服	脳神経系	系疾患	とリハビリ	テーション				
	3	脳神経系外科			主な服	脳神経系	系疾患	とリハビリ	テーション				
	4	消化器系外科			主なえ	消化器系	系疾患	とリハビリ	テーション				
	5	消化器系外科			主なえ	消化器系	系疾患	とリハビリ	テーション				
	6	循環器系外科			主な行	循環器系	系疾患	とリハビリ	テーション				
履修主題•	7	循環器系外科			主な行	循環器系	系疾患	とリハビリ	テーション				
履修内容	8	救命救急医療			心肺	蘇生法、	ショッ	ク、呼吸管	管理、中心静脈栄養	、輸血法、救急処置、ICU			
	9	皮膚疾患			解剖.	、生理、	症状、	病態生理	、主な皮膚疾患、内	科系疾患と皮膚病変			
	10	泌尿器科•生殖器疾患	<u>E</u> ,		解剖.	、生理、	診断、	検査、主	な泌尿器科と生殖器	疾患			
	11	婦人科産科疾患		解剖、生理、妊娠、分娩、出産、異常妊娠と合併症、女性生殖器疾患									
	12	眼疾患			解剖.	、生理、	症状、	病態生理	、主な眼疾患				
	13	耳鼻咽喉科疾患		解剖、生理、症状、病態生理、主な耳疾患、鼻疾患、咽頭疾患、喉頭疾患					患、咽頭疾患、喉頭疾患				
	14	老年医学とプライマリ	ケア				老年者医療に必要なプライマリケアとリハビリテーション						
	15	老年医学とプライマリ		老年者医療に必要なプライマリケアとリハビリテーション									

2020一度	4111 (240)422.7		工了 派从,	7-1-1		734 174
授業科目	一般臨床医学	担当教員	外音	部講師		
(科目ID)	23p205	(実務経験)	有 🗹	無□	病院勤務の臨床医	
対象年次・学期	2年・後期	担当教員				
授業形態	講義	(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		

授業科目		内部障害等	学	担当教員					鬼原 彰	
(科目ID)		23p206		(実務経験)	有		無		市内の医科大学にて 後、市内病院で内科	「内科学教授として教育に従事、その 医として勤務。
対象年次・学期	2年•通	9年		必修•選択区分	必修				単位数	2単位
授業形態	講義			授業回数(1回90分)				15	時間数	30時間
授業目的	・人間(の基本的構造とその機 まとかかわりを有してい	後能をコントロールす るかを学び、それを	る3つのシステムである神経 リハビリテーションに応用す	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				ようにして細胞レベ	ル、組織レベル、個体レベルの機
到達目標	・各臓	器系統別に疾患の成場	リ立ちと診断・治療」	この要点を学び、理学療法に	応用で	できる 。				
テキスト・ 参考図書等	標準理	里学療法学・作業療法・	学 専門基礎分野	内科学 第3版						
		評価方法	評価割合(%)					評価基	準	
	試験 100%									
評価方法・	レポー	· F	%							
評価基準	小テス	۲	参考	定期試験により評価する。	価する。					
	提出物	0	%							
	その他	の他 %								
履修上の 留意事項	欠席せ	:ず、予習復習をするこ	欠席せず、予習復習をすること。							
	回数		履修主題						履修内容	
		生体学総論(1)	履修主題		個体	·器官·	細胞の	機能とリノ	履修内容	
	1	生体学総論(1) 骨·関節·筋疾患	履修主題							
	1 2				骨・関	貫節・筋・	の機能		\ビリテーション 診断・治療	
	1 2	骨·関節·筋疾患	2性コントロール		骨·関 脳·神	関節・筋・ 神経系機	の機能	と疾患の	ハビリテーション 診断・治療	
	1 2 3	骨・関節・筋疾患	2性コントロール		骨·関 脳·神 脳·神	目節・筋・ 神経系機 神経系機	の機能	と疾患の	\ビリテーション 診断・治療 f・治療	
	1 2 3 4 5	骨・関節・筋疾患 ニューロンによる細胞 ニューロンによる細胞	型性コントロール 型性コントロール コントロール		骨·関脳·和 脳·和	関節・筋・神経系機・神経系機・沙の機・沙の機・	の機能能と疾能と疾能と疾	と疾患の 悪患の診断 悪患の診断	\ビリテーション 診断・治療 f・治療 f・治療	
履修主題・	1 2 3 4 5 6	骨・関節・筋疾患 ニューロンによる細胞 ニューロンによる細胞 ホルモンによる液性=	型性コントロール 型性コントロール コントロール コントロール		骨·関脳·和 脳·和 内分:	関節・筋・神経系機 神経系機 泌の機 泌の機	の機能・技能と疾能と疾能と疾	と疾患の診断 患の診断	\ビリテーション 診断・治療 f・治療 f・治療	
履修主題・ 履修内容	1 2 3 4 5 6 7	骨・関節・筋疾患 ニューロンによる細胞 ニューロンによる細胞 ホルモンによる液性= ホルモンによる液性=	型性コントロール コントロール コントロール コントロール こよるコントロール		骨·腿 脳·神 分 分 分	関節・筋・ 神経系機 神経系機 泌の機 泌の機能	の機能能と療能と疾能と疾	と疾患の診断 悪の診断 患の診断	Nビリテーション 診断・治療 イ・治療 ・治療	
	1 2 3 4 5 6 7 8 8	骨・関節・筋疾患 ニューロンによる細胞 ニューロンによる細胞 ホルモンによる液性ニホルモンによる液性ニ 免疫(細胞性・液性)	型性コントロール コントロール コントロール コントロール こよるコントロール		骨·腿·祁 内内 免疫	関節・筋・ 神経系機 泌の機 泌の機能 の機能・	の機能はと野生とアレル	と疾患の診断 悪の診断 患の診断 レギー・膠	\ビリテーション 診断・治療 f・治療 ・治療 ・治療 ・治療	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	骨・関節・筋疾患 ニューロンによる細胞 ニューロンによる細胞 ホルモンによる液性ニホルモンによる液性ニ 免疫(細胞性・液性)	型性コントロール コントロール コントロール コントロール こよるコントロール		骨腦絡不	関節・筋・ 神経系様 神経系様 必の機能 の機能・ ・器官・i	の機能を対すため、大きなのでは、まないでは、大きなのでは、まないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	と疾患の診断 悪の診断 患の診断 ルギー・膠 レギー・膠	ハビリテーション 診断・治療 ・治療 ・治療 ・治療 ・治療	··治療
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	骨・関節・筋疾患 ニューロンによる細胞 ニューロンによる細胞 ホルモンによる液性ニホルモンによる液性ニ免疫(細胞性・液性) 免疫(細胞性・液性) 生体学総論(2)	型性コントロール コントロール コントロール コントロール こよるコントロール		骨腦絡不分分免免傷消	関節・筋・筋・筋・筋・ 動きを を を を を を を を を を を を を を を を を を を	の機能はとが一体にという。 はいい はい	と疾患の診断 悪の診断 患の診断 ルギー・膠 機能とリノ ・胆・膵)の	Nビリテーション 診断・治療 デ・治療 ・治療 ・治療 ・治療 原病の診断・治療 原病の診断・治療	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	骨・関節・筋疾患 ニューロンによる細胞 ニューロンによる細胞 ホルモンによる液性= ホルモンによる液性= 免疫(細胞性・液性) 免疫(細胞性・液性) 生体学総論(2) 消化器系疾患	型性コントロール コントロール コントロール コントロール こよるコントロール		骨腦陷內內免免個消消	関節・筋・筋・筋・筋・ 動きを を を を を を を を を を を を を を を を を を を	の機能とが一条を疾れ、アンドのの肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝・肝	と疾患の診断 患の診断 患の診断 よの診断 よの診断 とギー・膠 機能とリノ ・胆・膵)の	Nビリテーション 診断・治療 「・治療 ・治療 ・治療 ・治療 原病の診断・治療 原病の診断・治療 Nビリテーション D機能と疾患の診断	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	骨・関節・筋疾患 ニューロンによる細胞 ニューロンによる細胞 ホルモンによる液性ニホルモンによる液性ニ免疫(細胞性・液性) 免疫(細胞性・液性) 生体学総論(2) 消化器系疾患	型性コントロール コントロール コントロール コントロール こよるコントロール		骨腦的內內免免個消消代	関節・筋・筋・筋・筋・ 神経系機 神経系機 心の機能 の機能 ・器 に消化 器 (消化 疾患の)	の機能とが疾失疾しとというのが肝肝が	と疾患の診断 悪の診断 悪の診断 まの診断 は ルギー・膠 機能とリノ ・胆・膵)の ・胆・膵)の	Nビリテーション 診断・治療 「・治療 ・治療 ・治療 ・治療 原病の診断・治療 原病の診断・治療 Nビリテーション D機能と疾患の診断	・治療
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	骨・関節・筋疾患 ニューロンによる細胞 ニューロンによる細胞 ホルモンによる液性ニホルモンによる液性ニ免疫(細胞性・液性) 免疫(細胞性・液性) 生体学総論(2) 消化器系疾患 消化器系疾患	型性コントロール コントロール コントロール コントロール こよるコントロール		骨腦腦內內免免個消消代循	関節・筋・筋・筋・筋・筋・筋・筋・筋・筋・筋・筋・筋・筋・筋・が 機・ を を を を を を を を を を を を を を を を を を	の機能とが疾疾をレーレーの・肝・肝・・心・	と疾患の診断 患の診断 あまの診断 と レギー・膠 機能とリノ ・ ・ 胆・膵) の・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ハビリテーション 診断・治療 ・治療 ・治療 ・治療 原病の診断・治療 原病の診断・治療 いビリテーション の機能と疾患の診断 の機能と疾患の診断	··治療 听·治療

授業科目		運動器障害学 担当教員 伊藤 雄人			伊藤 雄人						
(科目ID)		23p207		(実務経験)	有		無		Ħ	方内整形外科クリニ	ックで整形外科医として勤務
対象年次·学期	2年•通	殖 年		必修·選択区分	必修					単位数	2単位
授業形態	講義			授業回数(1回90分)				1	5	時間数	30時間
授業目的	PT・O ⁻ 理解す		りな治療をするため	に必要不可欠な、疫学・発症	発症メカニズム・代表的な検査・治療法を運動器疾患の総論および各論を追						
到達目標	①総論 ②各論	論として、整形外科領域 論として、各関節に代表	だにおける診断法・治 的な運動器疾患の	ネ療法・外傷学を学習・理解し 症状・発症メカニズム・検査・	、それ 治療(でれの こつい)要点に て説明・	こついてi ·記述がで	説明でき	I・記述ができる。 る	
テキスト・ 参考図書等	標準鬼	登形外科学 第14版									
	評価方法 評価割合(%) 評価基準										
	試験 100%										
評価方法・	レポー	ŀ	%								
評価基準	小テス	٦.	%	定期試験により評価する。							
	提出物	7	%								
	その他	1	%								
履修上の 留意事項	積極的	かに質問すること。									
	回数		履修主題							履修内容	
	1	整形外科総論			診断	・治療	総論				
	2	疾患疾患総論			外傷	総論·輔	次部組約	職損傷(え	末梢	神経損傷・脱臼・	靭帯損傷)
	3	疾患疾患総論			骨折						
	4	疾患疾患総論			軟部	炊部組織・骨・関節の感染症					
	5	疾患疾患総論			四肢	循環障	害の診	察∙診断	•		
	6	疾患疾患総論			代謝	性骨疾	患・骨原	重瘍			
履修主題・	7	疾患疾患総論			関節	リウマ	F				
履修内容	8	疾患疾患総論			変形	性関節	症				
	9	疾患各論			足部	・足関節	作疾患				
	10	疾患各論			膝関	節疾患					
	11	疾患各論			股関	節疾患					
	12	疾患各論			脊椎	•胸郭纲	 失患				
	13	疾患各論		上肢	_ 疾患①	(肩関)	節疾患)				
	14	14 疾患各論			上肢疾患②(肘·手関節疾患)						
	15	疾患各論		上肢疾患③(上肢のスポーツ障害)							

	41111040442	,, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	生于 冰丛	7-11-7	ነ ንቲስ የጉር
授業科目	運動器障害学	担当教員	江戸	香苗	
(科目ID)	23p207	(実務経験)	有☑	無	道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務
対象年次·学期	2年·通年	担当教員	元	木 純	
授業形態	講義	(実務経験)	有図	無	市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無	

授業科目		神経障害	学	担当教員					中村 仁志夫					
(科目ID)				(実務経験)	有		無			7年間研究の後、北海道大学で神経 年以上各養成校で教員として勤務				
対象年次•学期	2年•前	前期		必修·選択区分	必修				単位数	2単位				
授業形態	講義			授業回数(1回90分)				15	時間数	30時間				
授業目的	には隣	書克服の基本戦略に	基づく理念(リハビリ	負うところが大きい。神経系の テーション計画)が重要である 推敲を受けつつ、各自が充す	る。その	の基軸の	-なる^	き神経学	を主な疾患の特徴を	機能(機能障害)を回復、補填する ・把握しつつ、				
到達目標				る。 2)運動神経系と感覚神 や神経筋疾患を例示し説明で										
テキスト・ 参考図書等	•標準	・「病気がみえる」第7巻 脳・神経 第2版(メディックメディア社) ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「神経内科学」 第4版(医学書院) ・「医療系学生のための病理学」 第4版第19章(講談社)												
		評価方法	評価割合(%)					評価基	準					
	試験		42%											
評価方法・	レポー	·F	0%											
評価基準	小テス		0%	毎回のカード(小課題の演習 (筆記・50点満点)の成績とを	と理角	弾内容(せて全	り確認。 体的評	及び質問と 価とする。	回答)についての添	削と評価(70点満点)と定期試験				
	提出物 58%													
	その他	1	0%											
履修上の 留意事項	1)病理学の本(特に第19章)も常に脇に置くこと。、2)解剖学・生理学の知識を常に復習すること。、3)新聞や雑誌の病気の記事をよく読むこと。 4)主要な英単語については和名だけではなく、英語名による習得に努めること。 5)毎回のカードは各自の努力によって作成し、友達の書いたものを引き写す行為は自尊心を培うために極力避けること。													
	回数	回数 履修主題					履修内容							
	1	1 神経学の歴史における重要人物の把握、医療倫理の基本				医聖ヒポクラテス、神経学の父シャルコー、脳外科の父クッシング、変性性認知症の父アルツハイマー、遺伝性舞踏病の発見者ハンチントン、看護の母ナイチンゲール、教育者オスラー、X線の父レントゲン、錐体外路系の提唱者平澤興らの業績を知ることにより、医療人存在の理念を学ぶ								
	2	神経解剖学(1)		脳幹	脳幹の範囲、脳機能の局在、優位半球と劣位半球、日本人の脳、錐体路									
	3	神経解剖学(2)			錐体	錐体外路系、感覚路、脳血管系の解剖、髄液循環、血液脳関門								
	4	神経解剖学(3)			自律神経系、脊髄の解剖、脳神経症状の見方									
	5	神経学的診断法			運動調節・感覚の検査、腱反射など、画像検査の種類と対象となる疾患									
	6	神経学的検査法			СТЬ	用(てんかんを含む)								
履修主題• 履修内容	7	意識障害•運動麻痺			意識障害の分類、脳死の定義、運動麻痺と錐体路のレベル									
	8	錐体路と錐体外路系			随意	運動と	不随意	運動、運動]ニューロン病 (ALSI	ほか)、パーキンソン症候群				
	9	9 運動失調について						髄小脳変物	生症など(多系統萎	縮症を含む) の症候と分類				
	10 失語症と認知症					失語症の分類、認知症の分類と対策、アルツハイマー病など								
	11	脳血管障害			脳梗	、脳動脈瘤など								
	12	脳腫瘍			グリス	∤ ーマと	:非グリ	オーマ(髄	膜腫ほか)、母斑症					
	13	神経難病(1)脱髄疾患	患など		多発性硬化症、副腎白質ジストロフィー、脊髄空洞症、先天性代謝異常									
	14	神経難病(2)神経筋疫	実患など		筋ジストロフィー症、重症筋無力症、栄養障害、ミトコンドリア脳筋症など									
	15 プリオン病ほか、まとめ				ヤコブ病とBSE、臨床神経学の今後の課題									

2023年度

専門学校北海道リハビリテーション大学校

授業科目 (科目ID)	精神障害学		担当教員(実務経験)		a☑ 無 □			鵜飼 渉 市内医科大学にて大学教員、精神科医として15年以上勤						
対象年次・学期	2年・前			必修・選択区分	必修				務 単位数	2単位				
授業形態	講義			授業回数(1回90分)				15		30時間				
授業目的	各種料	青神疾患の基本症状と	治療法について、最	新知見を織り交ぜながら講	ら しょうしょう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅう しゅう	。リハビ	リテー	ションにお		必要な基礎知識を学ぶ。				
到達目標	各種料	各種精神疾患の基本症状と治療法について理解する。												
テキスト・参考図書等		標準理学療法学·作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 参考図書: 新精神医学												
		評価方法	評価割合(%)					評価基	準					
	試験 100%													
評価方法・	レポー	·ŀ	%											
評価基準	小テスト %			定期試験により評価する。										
	提出物	D.	%											
	その他	1	%											
履修上の 留意事項	生物的な視点、心理的な視点、そして社会的な視点から精神疾患や精神障害を学ぶ。精神医学の知識を持たずして作業療法の治療実践は成り立ちません。													
	回数		履修主題		履修内容									
	1	精神医学総論、成因	・分類、生物学的精	神医学	精神医学とは、概念、歴史、3つの成因について、ストレス脆弱性モデル									
	2	精神医学総論、成因	·分類、生物学的精	神医学	精神医学とは、概念、歴史、3つの成因について、ストレス脆弱性モデル									
	3	気分障害、人格障害	、感情障害の生物学	<u> </u>					障害、気分障害のな ほと援助、リハビリテ	既念、うつ病、操うつ病、持続性気 ーション				
	4	気分障害、人格障害	、感情障害の生物学	<u> </u>	人格とは、行動の障害、性の障害、気分障害の概念、うつ病、操うつ病、持続性勢分障害、経過及び予後、治療と援助、リハビリテーション									
	5	統合失調症			成因、疫学、症状の捉え方、診断、経過と予後、社会生活面での障害、治療とリビリテーション									
	6	統合失調症			成因、疫学、症状の捉え方、診断、経過と予後、社会生活面での障害、治療とリバビリテーション									
履修主題•	7	神経性障害、心身症			神経症の捉え方、恐怖及び不安を中心とするもの強迫を中心とするもの、ストレス関 害、解離・転換を中心とするもの、身体表現性、その他、定義と概要、心身症としての 患									
履修大容	8	神経性障害、心身症		神経症の捉え方、恐怖及び不安を中心とするもの強迫を中心とするもの、ストレス関連障害、解離・転換を中心とするもの、身体表現性、その他、定義と概要、心身症としての諸疾患										
	9		診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症候群、アルコール依存症を基盤に生じる精神障害、アルコール依存症の子供の問題、地域ネットワーク、家族の問題、睡眠薬・抗不安薬、有機溶剤・覚せい剤・大麻・モルヒネ・コカイン関連、地域ネットワークとチームアプローチ											
	10 アルコール依存症、薬物依存症						診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症候群、アルコール依存症を基盤に生じる精神障害、アルコール依存症の子供の問題、地域ネットワーク、家族の問題、睡眠薬・抗不安薬、有機溶剤・覚せい剤・大麻・モルヒネ・コカイン関連、地域ネットワークとチームアプローチ							
	11	児童・青年期障害、発	達障害		精神・心理発達の特性、行動及び情緒障害、その他の精神障害、心理的発達の 障害とは、特異的発達障害、広汎性発達障害、治療とリハビリテーション									
	12	児童・青年期障害、発	·達障害							の他の精神障害、心理的発達の 台療とリハビリテーション				
	13	心理検査、心理療法	、メンタルヘルス		知能の実		格検	<u></u> 查、精神化	F業能力検査、神経	心理学検査、各種心理療法とそ				
	14	心理検査、心理療法	、メンタルヘルス		知能の実		格検	查、精神化	F業能力検査、神経 	心理学検査、各種心理療法とそ				
	15	15 老年期精神医学					・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・							

	ALL IN PORTER.		- 	K ///	17		י אַנוּן נינע
授業科目	精神障害学	担当教員		川村	† 舞		
(科目ID)		(実務経験)	有	Ø	無		市内医科大学にて臨床心理士として20年以上勤務。札幌 市スクールカウンセラーとして10年以上従事
対象年次・学期	2年•前期	担当教員		津山	雄勇	Ē	
授業形態	講義	(実務経験)	有	7	無		市内医科大学にて臨床心理士として5年以上勤務。札幌 市スクールカウンセラーとして2年従事
		担当教員					
		(実務経験)	有[無		
		担当教員					
		(実務経験)	有[無		
		担当教員					
		(実務経験)	有[無		
		担当教員					
		(実務経験)	有[無		
		担当教員					
		(実務経験)	有[無		
		担当教員					
		(実務経験)	有[無		
		担当教員					
		(実務経験)	有[無		
		担当教員					
		(実務経験)	有[無		

授業科目	発達障害学		担当教員		佐々木智教							
(科目ID)		23p210		(実務経験)	有	有 🗹 無 🗌 市内小児施設にて理学療法士として10年						
対象年次•学期	2年・後			必修·選択区分	必修	§			単位数	1単位		
授業形態	講義			授業回数(1回90分)				8	時間数	15時間		
授業目的		もは小さな大人ではな 医療の提供体制につ			病態	につい	て学ぶ	。また、近	ー 年その重要性が増し	・ している障害児の問題、障害児に		
到達目標	子ども特有の疾患・病態について理解する。											
テキスト・参考図書等	言語聴	言語聴覚士のための基礎知識、小児科学・発達障害学 第3版										
	評価方法 評価割合(%)							評価基	· 华			
	試験		100%									
評価方法・	レポー	·ŀ	%									
評価基準	小テスト %		定期試験により評価する。									
	提出物		%									
	その他	1										
履修上の 留意事項	医療を志す者としての自覚を持ち、学習意欲を保って授業に臨むこと。											
	回数		履修主題						履修内容			
	1	オリエンテーション、小	小児科学概論		小児科学とは。小児科学を取り巻く環境の変化。小児医療における理学療法士 作業療法士の役割。							
	2 胎児·周産期、新生児·乳児健診				胎芽病と胎児病、子宮内発育不全、周産期障害など。出生から退院まで。乳 発達。乳児健診							
	3	遺伝疾患・先天異常、	神経疾患・てんかん	<i>(</i> 0	遺伝性疾患、染色体異常、奇形、先天異常。神経・筋疾患、てんかん、水頭症、 枢神経奇形、頭部外傷							
	4	その他の疾患			循環器、呼吸器、消化器、代謝、内分泌、感染症、免疫、アレルギー、泌尿器、 腫瘍							
	5	小児の発達と成長、近	重動・知的・発達障 割	=	発達の概念。健常な発達。小児の成長。運動発達障害、知的障害、広汎性発 障害、注意欠陥多動性障害(ADHD)							
	6	重症心身障害			重症心身障害の特徴、側湾、姿勢異常、筋緊張亢進、摂食・嚥下の異常、 害、気管切開・咽頭気管分離。							
履修主題•	7	医療的ケア			在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族の支援、訪問看護と訪問 発達支援としての外来リハ。							
履修内容	8	小児の在宅医療			小児の在宅医療における理				学療法士・作業療法	士の役割と期待するもの。		
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											

授業科目	臨床運動学		担当教員						浜本 浩一	本 浩一							
(科目ID)		23p211		(実務経験)	有	有 ☑ 無 □				道内外の総合病院	等で理学療法士として16年間勤務						
対象年次•学期	2年・道	五 年		必修·選択区分	必修					単位数	1単位						
授業形態	実習		授業回数(1回90分)					23	時間数	45時間							
授業目的	できる	。②基本姿勢、基本動	作、歩行の観察を		姿勢	、基本重	1作、步	行に	ついて	て観察により発見	- ●の観察に必要な用語を使うことが した特徴を図示することができる。						
到達目標	正常な	よ基本動作のメカニズム	ムを理解し、動作分	折を身につける。													
テキスト・ 参考図書等		動作分析 臨床活用講座 観察による歩行分析															
		評価方法	評価割合(%)					評値	西基準	Ė							
	試験		80%														
評価方法・	レポー	-	%														
評価基準	小テスト		10%	前期・後期定期試験(筆記)	、前期	小テスト	、後期	ポスタ	ター発	表を総合して評価	西する。						
	提出物		%														
	その他	<u>b</u>	10%														
履修上の 留意事項	学生間	間での実習は、健常な	動作の理解には不可	可欠なので集中して取り組む	ように												
	回数			履修内容													
	1 動作分析の基礎1				臨床運動学とは 身体運動の分析方法(運動・動作・行為)												
	2 動作分析の基礎2					生汗汗	めと基本	本動作	の関	日常生活活動と基本動作の関係							
	2	動作分析の基礎2			口吊	工石石3											
	3	動作分析の基礎2 動作観察・動作分析				回り動作	の細分	分化									
					身の	回り動作			作•運	重動分析)							
		動作観察・動作分析			身の基本	回り動作の記	平価方	法(動		重動分析)							
	3 4 5	動作観察・動作分析 動作分析の基礎3			身の基本	回り動作の記・座位・3	平価方	法(動 —— 姿勢観	察・分		摩擦力、外力)						
履修主題・	3 4 5	動作観察・動作分析 動作分析の基礎3 姿勢観察・分析			身の基本队位体重	回り動作の記・座位・3	平価方 立位、3 か方、5	法(動姿勢観)	像・分働くプ	分析の実際							
履修主題・ 履修内容	3 4 5 6	動作観察・動作分析 動作分析の基礎3 姿勢観察・分析 バイオメカニクス1			身の基本 臥位 体重	回り動作の記・座位・3	平価方立位、全か方、5	法(動姿勢観)	像・分働くプ	分析の実際 カ(重力、床反力、							
	3 4 5 6	動作観察・動作分析 動作分析の基礎3 姿勢観察・分析 バイオメカニクス1			身基队体力授寝返	回り動作の記・座位・3	平価方な位、多か方、手が開いた。	法(動 姿勢観)体に こ、関	働くプ	分析の実際 カ(重力、床反力、							
	3 4 5 6 7 8	動作観察・動作分析 動作分析の基礎3 姿勢観察・分析 バイオメカニクス1 バイオメカニクス2 グループワーク1			身 基 臥 体 力 授 寝寝寝寝	回り動作の記・座位・3、合成と分方は動作	平価方なな、対方、が対解、では、対対の対象を対して、対対の対象を対して、対対の対象を対して、対対の対象を対して、対対の対象を対して、対対の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	法(動祭制・一・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・	察・分 働くブー 表	分析の実際 カ(重力、床反力、							
	3 4 5 6 7 8 9	動作観察・動作分析 動作分析の基礎3 姿勢観察・分析 バイオメカニクス1 バイオメカニクス2 グループワーク1 グループワーク2			身 基 臥 体 カ 授 寝寝寝寝起のの 本 位 重 の 業 返返 返返 き	回り動作の記・座位・3・の水を入った。	平価方の方の解し、対しては、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そので	法(動	察・タ 働くプー 表 表	↑析の実際 カ(重力、床反力、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・							
	3 4 5 6 7 8 9 10	動作観察・動作分析 動作分析の基礎3 姿勢観察・分析 バイオメカニクス1 バイオメカニクス2 グループワーク1 グループワーク2			身 基 臥 体 カ 授 寝寝 寝寝 起起 起	回り動作の記・座位・立の成との方動動動動動動動動がしたがいまといる。	平価方(注)なり、「ない」では、「ない、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない、「ない、「ない、「ない」では、「ない、「ない、「ない」では、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない	法(動 姿勢観 身体に 、関	察・分働くプラス	分析の実際 カ(重力、床反力、 ーメントと筋活動							
	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	動作観察・動作分析 動作分析の基礎3 姿勢観察・分析 バイオメカニクス1 バイオメカニクス2 グループワーク1 グループワーク2 グループワーク3 グループワーク4			身 基 臥 体 カ 授 寝寝 寝寝 起起 起起 起	回り動作のの成とのの成法の作作のいりりりと上上上上上ががののない。	平価方し、シー・ストー・ストー・ストー・ストー・ストー・ストー・ストー・ストー・ストー・スト	法(動 要 事 体に 関 エー発 スフター	察・分付を表表を発える。	分析の実際 カ(重力、床反力、 ーメントと筋活動							
	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	動作観察・動作分析 動作分析の基礎3 姿勢観察・分析 バイオメカニクス1 バイオメカニクス2 グループワーク1 グループワーク2 グループワーク3 グループワーク4 グループワーク5			身 基 臥 体 カ 授 寝寝 寝寝 起起 起起 起起 立の	回動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	平価を立ている。解明のおい、作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作作	法 (動	察・分類の	分析の実際 力(重力、床反力、 ーメントと筋活動 長							

	回数	履修主題	履修内容
	16		立ち上がり動作立ち上がり動作のポスター発表
	17	グループワーク10	歩行
	18	グループワーク11	歩行
履修主題· 履修内容	19	グループワーク12	歩行のポスター発表
	20	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
	21	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
	22	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行
	23	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行